

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

7期—4号



2007.12.05

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01

From the President / Masaru MAENO

2007年度第3回拡大理事会報告(9/22)／赤坂 信 02

Report of the 3rd Meeting of the Executive Board, 2007

Makoto AKASAKA

建築遺産の構造修復と解析に関するISC(国際学術委員会) 06

出席報告／花里利一

Report of ISCARSAH / Toshikazu HANAZATO

世界遺産登録後の石見銀山遺跡／大國晴雄 07

After the inscription of IWAMI Silver Mine on the World Heritage

List / Haruo OOGUNI

鎌倉見学会に参加して／牧之段朝子(日本イコモス事務局インターン) 07

About the excursion to Kamakura

Asako MAKINODAN (Intern-student, Japan ICOMOS Secretariat)

お知らせ 08

Announcements

事務局日誌 10

Diary



イラスト／前野まさる(以下全て)

はじめに
前野まさる



本年も残り少なくなってきました。2004年から続く鞆の浦問題も本年にずれ込み、排水権者による広島県に対する訴訟問題へと進み、予断をゆるさない状況となってきました。

国内の世界遺産問題も石見銀山は二階級特進で世界遺産登録となり、11月11日に目出度く大田市で世界遺産伝達式を行なうことができました。国内にはまだまだ暫定登録を控えている候補が続いています。世界遺産審査の内容は年々厳しくなって参りましたので、日本イコモスも申請の準備段階で協力できる態勢を用意する必要があるのではないかと思います。

本年10月に南アフリカのプレトリアで開催されたICOMOSのScientific Councilシンポジウムでは、近年の世界的な気候変動が各国の都市や文化遺産に影響を与えているかが論議されました。日本は古来、地震、火災、台風と自然災害の多い国で、建築もこれらに対する対応をしてきていますし、これからも続けて行かねばなりません。こうしたリスクについての情報の国際的な発信と交流の必要を感じます。

来年のケベックのICOMOS総会のテーマが“Finding the Spirit of the Place”となっています。近年のICOMOS総会のテーマが“Tangible Heritage”から“Intangible Heritage”になり、昨年のCIAVのテーマが“Pride of Place”で、ついに“Spirit”まで来て、文化的遺産保存の原点を論議するのを感じます。来年はケベック総会に向けて、“Finding the Spirit of the Place”の論議を深めましょう。

2007 年次第 3 回拡大理事会報告

2007 年度第 3 回理事会（拡大理事会）が去る 2007 年 9 月 22 日（日）午前 1 時 30 分から 18 時まで日本イコモス事務局（東京都千代田区岩波書店一ツ橋ビル／文化財保存計画協会会議室）で開催された。出席者は、委員長：前野まさる、副委員長：杉尾伸太郎、事務局長：矢野和之、理事：赤坂 信、大野 渉、岡田保良（本部執行委員）、小野 昭、杉尾邦江、西浦忠輝、益田兼房、渡邊保弘、小委員会主査：崎谷康文、顧問：石井 昭の各氏が出席、事務局から秋枝、山内両氏が陪席した。報告事項、審議事項及び協議事項は以下の通りである。

報告事項

1. 2007 年度第 2 回拡大理事会報告

2007 年 5 月 26 日に岩手県平泉で開催された第 2 回拡大理事会については、JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 7 期 3 号（pp.2-4）を参照されたい。

2. 小委員会報告

第 5 小委員会

日本ブルガリア両国イコモス国内委員会の共同企画に基づく「プロヴディフ旧市街保存地区文化財建造物修復事業」はブルガリア・イコモスと日本イコモスとのジョイントワーキンググループと市役所を中心とする専門家グループ共同作業によって進められている。本年 8 月～9 月の 2ヶ月間は On the Job Training（学びながら手伝える）という研修を実施し、ブルガリア・イコモスと日本イコモスから講師として参加している。修復事業の状況については日本イコモスのホームページ「小委員会活動」を参照されたい。（石井昭主査）

第 6 小委員会

鞆の浦の埋立架橋問題について、日本イコモスは 2004 年から 2006 年まで 3 回にわたって保存を要請してきたが、本年 2007 年 3 月から県市（広島県と福山市）が埋立についての手続きを始め、住民に対しては事実と反することを説明し

ている。これに対して地元福山市民らからなる「鞆の浦の世界遺産登録を実現する生活・歴史・景観保全訴訟」原告団・弁護団が組織され、訴訟が起きている状況である。日本イコモスとして文化庁長官、広島県知事および福山市長宛に要望書提出すべく準備を進めている。（益田兼房主査）

3. 研究会報告

世界遺産登録候補「平泉」の見学会と意見交換

JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 7 期 3 号（pp.5-6）を参照されたい。

4. 執行委員会報告

ICOMOS 役員会議が本年 7 月 2 日にニュージーランドのクライストチャーチで開催された。主に次の 3 議題① ICOMOS と世界遺産、② 資金と運営、③ 今後の予定について討議された。第 31 回世界遺産委員会の討議内容の報告（2007 年 6 月 23 日～7 月 2 日、クライストチャーチで開催、JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 7 期 3 号（p.15）参照）、資金および ICOMOS 本部に関する要望をレポートとして次回プレトリア（南アフリカ共和国）での会議までに用意することなどが決定された。

（岡田保良 ICOMOS 本部執行委員）

5. ISC（国際学術委員会）報告

● Wood

本年 11 月 11 日～16 日にフィレンツェとヴェネツィアで第 15 回の国際会議が開かれる。テーマは「素材から構造へ（From Material to Structure）」。Wood Committee のホームページでは、ヨーロッパの木造教会の本（250p.）“Rescuing the Hidden European Wooden Churches Heritage” が無料でダウンロードできる。（渡邊保弘）

● Cultural Landscapes

JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 7 期 3 号（p.9）参照。

今回の文化的景観 ISC はノルウェーで開催の予定だったが、予算の関係でキャンセルとなり、コスタリカのサンノゼで 11 月 26 日～29 日に開催することになった。2008 年はアメリカ、



翌2009年は日本での開催となる。(杉尾伸太郎)

●CIAV

本年12月2日～8日までフィリピンのバナウエ (Banaue) で開かれる。メインテーマは“The Preservation of Traditional Landscapes”。サブテーマとして以下の2題。

A: Traditional Landscapes and Vernacular Architecture

B: Benefits from Preservation of Cultural Landscapes and Vernacular Architecture

前野は出席の予定。(前野まさる)

●ICORP

エゲル・プリンシプルに対応する役員の構成を検討していたが、デイス・ブンバル (カナダ) とロヒト・ジギヤス (インド) が共同代表、ロビン・リディット (オーストラリア) が事務局長、益田兼房が研修担当理事となった。現在、規約を作成中である。(益田兼房)

6. 2007年世界遺産委員会(クライストチャーチ)報告

JAPAN ICOMOS INFORMATION誌7期3号(p.15)を参照されたい。

7. 2007年度ICOMOS会費(ユーロ)

今年度からICOMOS本部に納入する会費がユーロの支払いとなった。本年8月16日に日本イコモスから国際郵便振替で日本イコモス会員304名分の2007年会費をパリのICOMOS本部に送金した。内訳は以下の通り。

個人会員

普通会費 (30～40ユーロ) 300名
(計 11,500ユーロ)

ヤングプロフェッショナル* 4名 (計 80ユーロ)

合計 11,580ユーロ

送金総額(現地手数料込み) 11,583.80ユーロ
(11,583.80ユーロ×160.33円) + 2500円(送金手数料)
= 1,859,730円

*ヤングプロフェッショナルは30歳未満の会員

8. 主催・共催・後援事業報告

以下の共催と後援の事業を報告する。

◆シンポジウム「朝鮮通信史の道を日韓共同の世界遺産へ」(後援、7月1日開催)

◆シンポジウム「平泉の景観いまとこれから」(後援、7月28日開催)

◆座談会「文化的景観から見た熊野古道」(共催、8月11日開催)

◆ワークショップ「文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用」(後援、9月7日開催)

◆ブルフラ氏特別講演(共催、9月7日開催)

◆第30回全国町並みゼミ伊勢大会(後援、9月14日～16日開催)

◆韓国文化遺産スタディーツアー(後援、8月15日～18日開催)

9. 「高速道路から世界遺産平城京を守る会」からの書状

同会からの世界遺産センター長宛の要請とクライストチャーチで開催された第31回世界遺産委員会のオブザーバー参加報告が紹介された。

10. ホームページ開設後の状況

日本イコモス国内委員会ウェブサイトの訪問者数など

8月1日に開設したウェブサイトの訪問について、Google AnalyticsというWeb Trackingサービスを用いて分析した。分析項目は、ホームページ(HP)総訪問者数、リピーター数、HP訪問回数、滞在時間(平均・詳細)、訪問者のページ閲覧数、イコモスHPまでの情報源、訪問者の地域(国別)などである。また、これらの情報をもとにSWOT分析を行い、HP訪問者を増やすための戦略を立てた。分析内容の概要は次の通りである。

8月には259人が日本イコモスのHPを訪れた(1日平均8人、トラッキングサービス利用開始は6日からであるため厳密には6日～31日の総訪問者数)。傾向としては月曜日に訪問者数が多く、週末には少ない。平均滞在時間は4分ほどで、長い方とのこと。最多の訪問者数は一日で22人(8月27日)。

これからの方針としては、イコモス会員に対してHPのPRを強める、その他関係機関へHP設立を表明する、イコモス自体の知名度の向上、英語ホームページの設立、リンクの充実、メディアへの露出拡大（国際NGOとしての立場を保ちつつ）、検索サイトの分析（Google、Yahooで「イコモス」というワードでサーチしてランキング何位か定期的にチェックする等）、などを中心に充実したウェブサイトの管理を心がけていく方針である。

11. 日本イコモスにおけるインターンについて

日本イコモス国内委員会事務局と京都大学大学院地球環境学舎との間で締結済みの「インターン研修に関する一般的な覚書」に基づき、地球環境学舎環境マネジメント専攻修士課程1回生牧之段朝子さんを受け入れることにした。なお、研修期間は本年9月1日～11月30日（週3日）。

審議事項

1. 入退会者

入会者 個人会員

氏名	勤務先	専門分野	推薦者
金山秋煥 (かなやまあきのり)	東急電鉄(株) 情報 コミュニケーション事 業部 課長	都市計画 工学博士	矢野和之・松田正充
柴田 久 (しばたひさし)	福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 准教授	まちづくり、景観 設計・計画、環 境政策 工学博士	高尾忠志・福島綾子
久保田利恵子 (くぼたれいこ)	独立行政法人 国際協力機構	経済学士	益田兼房・矢野和之
篠原 琢 (しのはらたく)	福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 准教授	ハプスブルク 帝国史 プラハ市史	矢野和之・益田兼房

退会者

氏名	専門分野	備考
岡村道雄	考古学	都合により今年度いっぱい退会希望
村上訊一	日本建築史	都合により

日本イコモス国内委員会の会員数は、今回の入退会者を含めて以下の通り。

個人会員：320 + 4 - 2 = 322名 維持会員：13社

協議事項

1. イランICOMOSとの協力について

イラン・イコモスのシラジ委員長から、日本で開催されるセミナーに参加するイスファハン大学のヘジャジ教授を紹介し、今後も両国の研究調査上の協力を促進させようという前野委員長宛の書簡が紹介された。

2. 平泉についてのレポート作成の要請

レポートはパリの本部に送られることになるが、自国のnominationは基本的にconfidentialなものであるから、中立的な立場を日本イコモスはとるべきである。したがってレポートというよりはレターという形でICOMOS会長には返答することにした。

3. 2007年10月南アフリカで開催されるAdvisory-Executive Committeeについて

●4つのタスクフォース

昨年のエジンバラ会議ではほとんどの各国国内委員会の代表にアンケートを配布し回答を得た。その結果、4つのタスクフォースにまとめられている。

Task Force1 メンバーシップと規約

Task Force2 地域協力

Task Force3 国内委員会とISCおよびScientific Councilとの協力

Task Force4 世界遺産に関するICOMOSの事業における国内委員会の参加

いずれもICOMOSと各国の国内委員会が直面している課題である。次回のプレトリア（南アフリカ）では以上が中心となる議題となることが紹介された。



● ICOMOS Asia-Pacific Region Report

世界遺産に関して国内委員会が直面している争点についていくつか項目別に整理した。そのうちモニタリングの内容について、ツーリズムの効果に対する疑問点、地域住民の理解が世界遺産にも必要、インターナショナルを強化するには、ナショナルを基礎にリージョンへ拡大することなどを挙げている。

4. ICOMOS Asia-Pacific Region Meeting 2009 の日本開催について

日本イコモスは、ICOMOS Asia-Pacific Region Meeting 2009を受け入れるべく、その準備をしている。

5. CIPA 年会ミーティング 2009 を日本で開催予定

CIPA2007は本年10月の中旬にアテネで開催される。また2009年には京都で開催が予定されている。

6. 2008年ケベック(カナダ)における総会・シンポジウムについて

- 論文の発表申込に関する詳細な情報はまだない。
- 選挙の準備：岡田執行委員に2期目をめざすにあたって、韓国に推薦書作成の要請を依頼することにする。

7. 2007年12月8日の日本イコモス総会後の研究会テーマ

来年のケベック大会でのテーマ：—FINDING THE SPIRIT OF THE PLACE—としたい。

8. 2007年10月28日(日)の鎌倉見学会および意見交換会から

見学会の参加者は20名限定(max25名)で行なわれた。神奈川県、鎌倉市、逗子市、横浜市は2010年登録をめざして計画を急いでいるが、多くの問題も抱えている。県市の担当者とイコモス会委員との意見交換の場としたい。

9. 小委員会

● 第4小委員会(世界遺産のモニタリング)：石見銀山の件は本年10月中にこれまでの情報を整理しておく機会をもちたい。

● 第6小委員会(鞆の浦の問題に関する研究)：歴史的町並みを保存するために都市計画道路を廃止し、そのかわりに埋立架橋を建設するなど市の配布している冊子には事実と違うことが記述されている。これに対するものとして関連の研究報告がまとめられている。日本イコモスのホームページの「小委員会活動」を参照されたい。

● 「朝鮮通信使小委員会」の立ち上げが検討された。

10. 後援依頼

以下の後援依頼について協議し、承認された。

- 立命館大学歴史都市防災研究センター主催の「ユネスコ・チェア『文化遺産と危機管理』国際研修(開催期間2007年11月5日～17日)」の後援 (益田兼房)
- ユネスコアジア文化センター(奈良オフィス)主催の「文化遺産危機管理国際専門家会議(奈良県立新公会堂、2008年1月17日～18日開催)の後援 日本イコモスのメンバーに公開(傍聴) (益田兼房)
- ISC Cultural Route (CIIC) の2009年総会開催
2009年8月に三重県が主催でCIICの総会を開催し、日本イコモスはその後援 (杉尾邦江)

11. 足達富士夫氏寄付金の扱いについて

ご遺族から500万円の寄付金(相続税払い込み済み)のお申出があり、これを謹んで受託することにした。

12. 会費問題

未納者総数が45名。未納金額総額が660,000円。2007年9月21日現在の数値であるが、今年度分(2007年)だけでも35名あり、35万円の未納となっている。本部への支払いには猶予はないため、看過できない問題であることが話し合われた。

13. 公益法人化問題

来年12月に公益法人化を申請したい旨の報告があり、承認された。

14. その他

ICOMOS 名誉会員に坪井清足氏を推薦したいのでその手続をしたいとの意見があり、承認された。



達谷 隆

建築遺産の構造修復と解析に関する ISC (国際学術委員会) 出席報告

花里利一

場所：トルコ・アンタルヤ

開催日：2007年9月20日 (ISCARSAH Workshop は9/22に開催)

ISCARSAHトルコ会議は、歴史的建造物の研究に関わる国際会議 SHH-07 の開催日程 (9月17日～21日) に合わせて2007年9月20日に地中海のリゾート地アンタルヤで開催された。近年、ISCARSAH 会議は年に2回開催されており、今回は6月のシカゴ会議に引き続いて行なわれた。9月22日には、ISCARSAH 主催の国際ワークショップが開催され、トルコ国内から多数の出席があり、歴史的建造物の構造と修復に関する関心の高さが感じられた。

今回の会議の主題は2つであり、①ドレスデン大学のイエーガー教授らによるバム地震で被災したアルゲバムの建造物の修復計画に関する発表と討議、②ISO13822 (既存構造物) に加える ANNEX (歴史的建造物) のドラフト案に関する討議である。②は、すでに三橋東北大学教授を主査とする ISO/TC98/SC2/WG6 の活動が始まっており、それをサポートするための国内WGが組織され、日本イコモスからは岩崎氏 (地域地盤環境研究所) と花里が委員になっている。今回のアンタルヤ会議では、ISCARSAH の Safety Group が作成した原案を上記の国内WGで審議して修正した案を資料として配布し、それに基づいて審議した。しかし、会議では、参加委員から意見がいろいろ出され、時間の制限もあり、意見の集約は不十分のまま終わったことから、修正案を各委員に送り、意見を求めることになった。ペレ教授と打ち合わせた結果、各国から出された意見を ISCARSAH の修正案として取りまとめ、上記の国内WGに提出することになった。この ANNEX 案を審議する ISO 国際委員会 (ISO/TC98/SC2/WG6) は10月22日にスペイン・マドリードで開催される。なお、ISO の改訂は5年ごとであり、次回の改訂期である3年後を目標に ISWO13822 に歴史的建造物の ANNEX を加えることを目標としている。



アンタルヤ会議では、委員長のロカ教授（スペイン・カタルーニャ工科大学）より次期委員長の選出について話があった。委員長の任期は3年で、来年6月までであり、次期委員長は来年6月のバース（イギリス）会議で選出される。

世界遺産登録後の石見銀山遺跡

大國晴雄

（鳥根県大田市石見銀山課前課長）

石見銀山遺跡は1923年（大正12）に休山して以来、最も中心となる大田市大森町では、「地域住民の誇り」として、金戸加入の大森町文化財保存会が1957年に結成され、以降1969年の鉱山遺跡として初の史跡指定や民間による資料館の開設・運営や伝建地区選定がなされた。したがって、世界遺産の話も文化財保護（史跡指定など）や、伝建地区（町並み保存）の延長線上にあることとして比較的順調に地域住民に受け入れられたところがある。もちろん、特に市担当者の熱意やイコモス会員を中心とする専門家の助言の寄与するところも大であった。

今年7月に世界遺産登録されて以来、想定をかなり超え、昨年倍ほどの来訪者があり、準備していた遺産に隣接した駐車場や史跡ガイダンス施設を活かしたパーク&ライド、観光バスの予約制による遺跡への負荷軽減、便益施設の整備、観光ガイドなど取り組んでいるが、全てが順調に進んでいるわけではない。夏には1日あたり最高で900台余の自家用車が駐車し、4月から始まった観光バスの予約制では秋には1日50台が入るなど想定を超えた状況である。

地域住民にとっての「これまでの穏やかな暮らしを阻害されたくない」との思いを大切にしつつ、全国から世界遺産を見学に来る様々な来訪者の皆さんにも世界遺産の価値を理解してもらうことは率直に言って大変な事である。

遺跡の中心でもある大森町でこのほど定められた住民憲章の精神や、一昨年からの取り組みを進めている行政と民間の協働を目指した「石見銀山協働会議」による「石見銀山行動計画」実現に努力している。

石見銀山大森町住民憲章

このまちには暮らしがあります。
私たちの暮らしがあるからこそ
世界に誇れる良いまちなのです。
私たちは
このまちで暮らしながら
人との絆と石見銀山を
未来に引き継ぎます。

記

未来に向かって私たちは

- 一. 歴史と遺跡、そして自然を守ります。
- 一. 安心して暮らせる住みよい町にします。
- 一. おだやかさと賑わいを両立させます

鎌倉見学会に参加して

日本イコモス国内委員会事務局インターン 牧之段朝子

（京都大学大学院地球環境学舎修士1年）

日本イコモス国内委員会の事務局でインターンを始めて早二ヶ月、普段は神保町の事務局での業務のお手伝いですが、今回鎌倉で行なわれた見学会に参加する機会を与えていただきました。お電話や書面でお名前だけは拝見したことのある会員の方々にお会いすること、初めて鎌倉を訪れることなどへの期待と緊張を感じつつ参加してまいりました。

当日は、鎌倉市役所の会議室に集合し、鎌倉市長をはじめ、鎌倉市の方のご挨拶と説明を受け、そしてマイクロバスに乗り世界文化遺産候補地のいくつかを案内していただきました。まず鎌倉五山の一つでもある建長寺へゆき、寺の方の案内とともに境内を見学し、その後、浄光明寺とその周辺、鶴岡八幡宮、北条市常盤亭跡などを見学しました。鎌倉の町は静かで落ち着いていて、まるで街全体が山林のなかにたたずむ禅寺のようでした。どの場所でも緑が多く、周囲を取

りまく山と切り立った崖が印象的でありました。歴史的町並みの保存を防災の観点から考えたいと思っている私にとって、この鎌倉の特徴でもある、山の谷間を埋めるように広がる町並みはとても興味深く魅力を感じるとともに、地震を初めとする災害時の被害が頭をよぎりました。そのことを市の方へ質問すると、やはり切岸に崩落の危険性はつきもので、建長寺の山肌では実際に崩落の跡を見受けることが出来ました。またここ鎌倉でも関東大震災時には人的物的ともに多くの被害を受け、その上その被害からまだ完全には立ち直っていないという話を聞き、被害の大きさを痛感しました。

見学会後のディスカッションでは会員の先生方の活発な意見交換が行なわれ、鎌倉の世界遺産登録を目指すに当たっての問題点やこれからの課題などが主な議題として話し合われました。文化遺産としてのストックは十分であるが、なぜ鎌倉が世界文化遺産にふさわしいのかというコンセプトが弱く伝わりにくいということ、交通問題などが主な課題として挙げられました。

私にとって会員の方々のお話し合いを直接聞く機会は初めてであり、非常に勉強になりました。そしてイコモスという組織の良いところはそのメンバーのバラエティの豊かさだということを感じました。どの会員の方々も文化遺産保護に関心をお持ちであるが、そのバックグラウンドは様々で、そしてその多様さから、同じテーブルで話をしたとき、全く違う観点からの意見が飛び出します。例えば鎌倉を舞台に30分番組を作るとしたらどうか、本にするならどこが代表的風景といえるだろうか、都市計画としてどうか、防災計画上の問題、歴史から学ぶこと、地元住民ならではの視点など、一見バラバラでも、どれも文化遺産を守る活動につながるということを実感しました。

事務局インターンとして至らないところばかりでしたが、今回このような研究会に参加する機会を与えていただき、そして貴重な体験をさせていただいたことを感謝しております。

お知らせ

2008年ICOMOSケベック総会のプログラム発表

16th General Assembly and International Scientific Symposium

“Finding the Spirit of the Place”

September 29th to 4th October 2008

International Forum of Young Researchers and Professionals in Cultural Heritage 27-28/09/2008

International Scientific Committees' Day 29/09/2008

Opening Lectures 30/09/2008

Scientific Symposium 01-03/10/2008

16th General Assembly 04/10/2008

Post Conference Tours 05/10/2008

詳細は以下をご覧ください。

http://www.conferium.com/Clients/icomos/en/01_bienvenue.htm

http://www.conferium.com/Clients/icomos/en/06_programme.htm

2008年ICOMOSケベック総会のCall for Papers が発表されました

“THE SPIRIT OF PLACE

BETWEEN THE INTANGIBLE AND THE TANGIBLE”

アブストラクト応募期限：2008年2月15日（オンライン応募で所定フォーム使用、ファクス不可）

アブストラクト審査結果（口頭発表・ポスター）通知：2008年4月

フルペーパー締め切り：2008年7月15日

アブストラクト：100-150ワード（英語もしくは仏語）



応募情報：執筆者氏名、連絡先、サブテーマ、キーワード、略歴（75ワード）

詳細は以下をご覧ください。

● テーマ：<http://www.conferium.com/Clients/icomos/en/pdf/Appel-then.pdf>

● 応募（アブストラクト、フルペーパー）詳細：
http://www.conferium.com/Clients/icomos/en/05_appelconferences2.htm

シンポジウムのテーマ：THE SPIRIT OF PLACE — BETWEEN THE INTANGIBLE AND THE TANGIBLE

It is often assumed that the spirit of place emanates from one or the other, as stemming from either the physical object or from the specific uses it serves. Some believe that it is the product of the genius of its creator, who leaves a permanent mark on the place - the creator being an individual, a group, a community, an ancestor or even a supernatural being - while others think instead that it originates from the place itself, which instils meaning in both its creator and its users. However, these approaches tend to present spirit of place as an essence, as something singular, permanent and static.

Rather than dissociating “spirit” from “place,” the tangible from the intangible, and considering them as being opposed to one another, we invite participants to explore the many ways in which the two interact and mutually complement one another. We wish to broaden the discussion to include not only the creator but also the actual users of place, and define place as being a combination of both tangible elements (the features of the site, the buildings, the material objects, etc.) and intangible elements (oral traditions, beliefs, rituals, festivals, etc.). When considered as a relational concept, the spirit of place takes on a plural and dynamic character, capable of possessing multiple meanings, of changing over time and of belonging to different groups.

サブテーマ：

1. Re-thinking the Spirit of Place—再考する

(material culture theory, objectification, heritage making, social use, community, commemoration, memory, remembering, forgetting)

2. The Threats to the Spirit of Place—脅かすもの

(conflicts, frontiers, degradation, destruction, abandonment, tourism, folklorization, innovation, cultural behavior, nostalgia, migrations, listing, inventories)

3. Safeguarding the Spirit of Place—護る

(conservation policies and practices, legal framework, plurality, reflexivity, restoration, integration, tradition bearers)

4. Transmitting the Spirit of Place—伝える

(interpretation, transmission, safeguarding, meaning, mediation, transformation, appropriation, recontextualization, revitalization, technologies)



日誌 事務局

(2007年7月21日～11月16日)



- 7/24 UNITAR HOAP Afghan Fellowship 2007、第2回 AudioWeb カンファレンス。カブール、広島、東京がつながる。Mentor Teamからは、前野まさる、矢野和之、友田正彦、秋枝ユミザベルが参加。国王死去の喪に服しているため、コーチとしかつながらなかった。Tsukuba World Heritage Studies Newsletter vol.5を受領。毛利和雄氏より現代女性文化研究所ニュースvol17を受領。
- 8/1 日本イコモス国内委員会ウェブサイト公開。www.japan-icomos.org
- 8/16 パリ本部へ2007年度メンバーシップ送金、304名分。
- 8/24 平泉の世界遺産推薦評価ミッションのため Jagath Weerasinghe 氏 (スリランカ) 来日、日本イコモス国内委員会有志で会合を開き、その後歓迎会 (10名参加)。
- 8/26-30 平泉への世界遺産推薦評価ミッション、前野委員長同行、稲葉信子両氏が同行。
- 8/28 UNITAR HOAP Afghan Fellowship 2007、第3回ビデオカンファレンス。カブール、広島、オースティン、東京がつながる。Mentor Teamからは、秋枝ユミザベルが参加。
- 8/31 日本イコモス国内委員会第6小委員会 (鞆の浦の問題に関する研究) として、「歴史的港湾都市「鞆の浦」文化遺産保全に関わる研究報告書 (第一次報告)」を作成。
- 9/3 京都大学より牧之段朝子さんが日本イコモスヘインターンとして事務局へ。2007年12月まで。
日本ユネスコ協会連盟よりユネスコ vol.1111, 2007.9を受領。
- 9/7 日本イコモス国内委員会事務局ボランティア 斎藤雪絵さん終了 (フランス留学)。
Michael Petzet 氏 (ICOMOS President) より Heritage at Risk ICOMOS World Report on Monuments and Sites in Danger 2004/2005を受領。
- 9/10 [JAPAN ICOMOS INFORMATION] 第7期3号発行、会員に順次発送。
- 9/14-16 全国町並み保存連盟主催「第30回全国町並みゼミ伊勢大会」開催 (日本イコモス後援事業)。日本イコモスより、前野委員長以下多数の会員が参加。
- 9/18 東京文化財研究所より「概要 (2007年版)」、Tobunken News no.29、Tobunken News Digest no.1を受領。
(財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所より ACCU news no. 363, 2007.9を受領。
- 9/22 2007年次第3回拡大理事会開催 (於 岩波書店一ツ橋ビル B1F 会議室)。
- 9/25 文化庁長官、広島県知事、福山市長へ「広島県福山市「鞆の浦」の伝統的建造物群保存地区の指定に関する要望書」を送付。
UNITAR HOAP Afghan Fellowship 2007、第4回オーディオウェブカンファレンス。カブール、広島、東京がつながる。Mentor Teamからは秋枝ユミザベルが参加。
- 10/1 立命館大学歴史都市防災研究センター益田兼房氏より「東アジアにおける歴史的都市集落空間の保存手法に関する比較研究」報告書を受領。
Stuart Smith 氏 (UK ICOMOS) より、「Cornwall and West Devon Mining Landscape _ World Heritage Site Management Plan 2005-2010」を受領。
- 10/6-11 ICOMOS Advisory Committee, Executive Committee 会議 (場所: 南アフリカ、プレトリア)。前野まさる委員長及び岡田保良本部執行委員が参加。
- 10/9 花里利一氏より、ICOMOS ISCARSAH の冊子 Recommendations for the Analysis, Conservation and Structural Restoration of Architectural Heritage (英語・トルコ語)を受領。
- 10/10 日本イコモス国内委員会ウェブサイト第6小委員会 (鞆の浦の問題に関する研究) のページを開設。
- 10/15 全国町並み保存連盟より「第30回全国町並みゼミ伊勢大会」(日本イコモス後援)を受領。
- 10/22 第5小委員会 (プロヴィデフ旧市街保存事業に対する協力) 会合 (於 岩波書店一ツ橋ビル)。
- 10/24 前野まさる氏より 2007 ICOMOS Asia and the Pacific Regional Meeting, Heritage and Metropolis in Asia and the Pacific (May 29-June 1)を受領。
- 10/28 日本イコモス国内委員会主催「武家の古都・鎌倉と文化財 (世界遺産登録予定) 見学会・意見交換会」開催。前野委員長以下、日本イコモス会員20名ほどが参加。
- 10/30 UNITAR HOAP Afghan Fellowship 2007、第5回 AudioWeb カンファレンス。カブール、広島、東京がつながる。Mentor Teamからは秋枝ユミザベルが参加。
- 10/30-31 中国西安にて ICOMOS International Conservation Center (IICC-X) 主催 Preparatory Committee of "International Symposium on Application for World Heritage of Silk Road" シンポジウム開催。日本イコモスからは前田耕作氏 (委員長代理)・大野渉氏 (副委員長代理)・山内和也氏が参加。
- 11/04 「平泉」世界遺産フォーラム開催 (日本イコモス後援事業)。矢野事務局長がコーディネーターとして参加。
- 11/05 (財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所より文化遺産ニュース vol. 17, 2007.09を受領。
- 11/05-17 立命館大学歴史都市防災研究センター ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修開催 (日本イコモス後援事業)。日本イコモスより、開催者・講師・コーディネーターなど多数参加。
- 11/07 東京文化財研究所より Tobunken News no.30を受領。
- 11/16 (財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所より ACCU news no. 364, 2007.11を受領。

日本イコモス国内委員会 維持会員 (代表者)

(敬称略・順不同)

株式会社 尾田組 (尾田芳信)

株式会社 都市環境研究所 (矢嶋啓自)

株式会社 ブラック研究所 (杉尾伸太郎)

株式会社 トリアド工房 (伊藤民郎)

西武建設株式会社 (大澤茂治)

北野建設株式会社 (北野次登)

株式会社 小林木材工業 (小林美和)

株式会社 鴻池組 (大岩祥一)

株式会社 乃村工務社 (乃村義博)

株式会社 文化財保存計画協会 (矢野和之)

「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会 (有賀 正)

株式会社 京都科学 (片山 保)

「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」(仁科恵敏)

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業・団体のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO		
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO		
Secretary General	事務局長	西村 幸夫	Yukio NISHIMURA		
		矢野 和之	Kazuyuki YANO		
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA		
		小野 昭	Akira ONO		
		河野 俊行	Toshiyuki KONO		
		黒田 乃生	Nobu KURODA		
		清水 真一	Shinichi SHIMIZU		
		杉尾 邦江	Kunie SUGIO		
		鈴木 博之	Hiroyuki SUZUKI		
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA		
		田辺 征夫	Yukio TANABE		
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA		
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI		
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA		
		宮城 俊作	Shunsaku MIYAGI		
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE		
		Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		Advisors	顧問	前田 耕作	Kosaku MAEDA
				石井 昭	Akira ISHII
				伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI		

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
		崎谷 康文	Yasufumi SAKITANI

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
ISC on:		
Archaeological Heritage Management	小野 昭	Akira ONO
Analysis and Restoration	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
Historic Towns and Villages	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
Underwater Cultural Heritage Training	上野 邦一	Kunikazu UENO
	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
Cultural Landscapes	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工楽 善通	Yoshimichi KURAKU
Vernacular Architecture	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中 眞	Makoto MOTONAKA
Wood	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Earthen Architecture	伊藤 延男	Nobuo ITO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Cultural Tourism	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
Legal Issues	石井 昭	Akira ISHII
	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Heritage Documentation	山田 修	Osamu YAMADA
	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
Cultural Routes	大野 渉	Wataru OHNO
	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
Stone	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Risk Preparedness	小川 勝	Masaru OGAWA
Rock Art	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI



JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.7, No.4 05 DECEMBER 2007

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>

JAPAN-ICOMOS National Committee Secretariat

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>